



美しい地球 郷土のために 暮らしを見直し、 行動を。

地球規模で環境問題が深刻化している昨今。熊本県内にも、このような状況を直視し、日常生活の中で取り組める身近で具体的な活動を実践している消費者がいます。

熊本県では、このように省資源・省エネルギーの実践活動に取り組むグループを積極的に支援し、モデルとしてのグレードアップを図るため、平成3年度から「エコライフ推進事業」をスタートさせました。現在7つのグループがモデルとして活動しています。

今回のママさんレポートでは、その一つ「グループエコ」の奮戦ぶりと、民間企業の取り組みを紹介します。

手作りバッグは環境保護の強い味方

渡辺絢子さん
(熊本市鶴羽田町)

「私たちが子どものころ遊んだ川が汚れてしまった」「オゾン層の破壊が進み、外国では皮膚ガンの増加が心配されている」「鮎が大量に浮かんでいた」など、地球規模から町内のゴミの出し方に至るまで、環境についての情報が流れない日はありません。そんな中、自分たちの身近なところで出来ることは何かを考え、まずは暮らしの中にある問題から見直し改善していこうと活動に取り組む「グループエコ」の皆さんにお話を伺うことができました。

「グループエコ」は熊本市内の主婦層を中心に約六十名で構成されており、企業に簡易包装を働きかけたり、「自分たちで作った袋で買い物をしよう」を合言葉にビニール手揚げ追放運動を展開しています。取材当日は、運動の柱である袋作りの最中で、用途に合わせてデザインし、素材を選んだ工夫のある袋をたくさん見せてもらいました。

手作りバッグで楽しく買い物をしながら「ゴミの減量につなげるなんて、女性ならではのアイデアで素敵です。また、資源の節約にもつながります。」「グループエコ」では、この手作りの買い物袋を通して仲間をどんどん増やしていきたいとのこと。ちなみに私も「コトコト」・「ストップ・ザ・過剰包装」を実践している一人です。小さなことでも始めることが大切。美しい地球、そして郷土のためにも県民一人ひとりが自覚を持って暮らしたいものです。

企業と消費者一体 で取り組みたい 環境保護

竹下美也子さん
(球磨郡多良木町)

私たちが毎日のように利用するスーパーマーケット。しかし、ちよっと気になるのが過剰包装や食品トレー。環境保護を考えていくうえで、これらの問題にどう対処すべきか消費者と企業が一体となって考えることが大切です。そこで企業側の取り組みをレポートするために、熊本市内にある大手スーパーを訪ねました。

「地球にやさしい企業」を目指すこの会社は、業界でも率先して簡易包装の実施、食品トレーの減量化、再生紙の利用など積極的に行っているとのこと。早速、手作りの買い物袋を手に地下的食品売場へと降りていきます。レジまわりには過剰包装の無駄を呼びかけるポスターが貼ってあるのですが、まだまだ買物袋持参の消費者やビニールの手揚げ袋を辞退する消費者の数は少ないようです。

本気で地球の環境保護を考えることが必要な今、消費者と企業に意識のズレがあってはいけません。お互いに同じレベルで省資源、省エネルギーに対する意識を持ち、さらに向上させていかなければならないでしょう。従来の無駄の多い生活様式を見直すことに気づき始めた私たち人間は、今、やっと愛する地球の住人としてのスタート地点に立ったばかりのようです。



- ①笑い声が絶えず、活動は終始なごやか
- ②「手作りバッグで買い物を」と呼びかける「グループエコ」の作品に見入るママさん
- ③素材選びからデザインまで一貫して行う。作品はすべてオリジナル
- ④トレーを使わずにスッキリとまとめられた商品棚
- ⑤簡易包装の実施後、消費者側の反応について聞く
- ⑥買い物は手作りバッグの中へ